

矢作川流域圏懇談会通信

山部会編 vol.1



発行日：平成 25 年 7 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第9回山部会WGを開催しました！

6月29日（土曜日）に第9回山部会WGが開催され、H25年度のWGがスタートしました。

WGでは、今年度の活動計画として、今年度実施する4つの活動の内容と進め方について話し合いました。

日時：平成 25 年 6 月 29 日（土）9:00～14:00
場所：根羽村老人福祉センター
参加者：21名（事務局含む）



◆主な会議内容

今年度以降の山部会運営方針 ～山部会でとりくむ4つのこと～



1. 山村再生担い手づくり事例集について

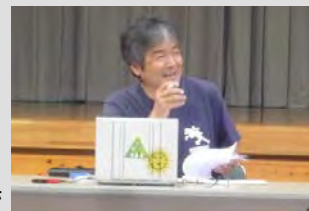
山村再生担い手づくり事例集の作成は、矢作川流域の中山間地域振興に関わる団体・個人の活動情報を共有し、ネットワーク化を支援していくことを目的としています。



今回は、調査する活動団体（21団体）と根羽村・恵那市・豊田市・岡崎市それぞれの担当者を決定しました。

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

矢作川流域山村ミーティングは、流域圏全体で山村再生のアイデアについて話し合うことを目的にしています。



まずは恵南地域の山村で7月17日に開催予定の「いっぺん寄ってみよまいか～結の炭家でアイターンゆんたく」をきっかけに1ターン者同士の交流を通じて進めていきます。

3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

矢作川流域圏森づくりガイドラインは、流域圏の森の将来の姿と実現手段について提示することを目的としています。



ガイドラインの作成にあたり流域圏の森を構成する3県の関係課へ、座長と事務局でガイドラインの作成趣旨について説明に行くこととなりました。

4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

矢作川流域圏木づかいガイドラインは、矢作川流域圏の木材利用を住民・事業体・行政が一体となって推進するきっかけづくりを目的としています。ガイドラインは3カ年かけて策定することとし、まずはターゲットを明確にするためのアイデア出しについて、「ブレインストーミング方式」で実施することとなりました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- 団体そのものよりも団体が取り組んでいる活動に着目することがよい。(丹羽)
- ヒアリング時には、団体が「どんな仲間を求めているのか」が分かるとよい。(今村)
- 団体の持つ悩みや課題に対し流域圏懇談会の参加者がどのように関わられるのかも重要。(今村)
 - ▶ 今回出された意見を踏まえ、7月に開催予定の次回WGで企画案を示す。(洲崎)



より具体的に話し合う「事例集ワーキング」を同日午後を開催しました！

- 取材のとりまとめを行う団体が決まりました。
- 取材先団体にあわせ地域毎に担当者を決めました。(根羽村 南木氏、恵那市 丹羽氏、豊田市 洲崎氏、岡崎市 沖氏)
- 取材先団体は、根羽村3団体、恵那市3団体、豊田市12団体、岡崎市3団体の合計21団体としました。
- 取材先団体の選定は「なぜその団体なのか？」について情報共有するため推薦の言葉を考えることとしました。

●矢作川流域山村ミーティングについて

- ミーティングは、それぞれの森林組合が抱える悩みを全員で話し合うことを目的として行い、搬出時の課題や悩みを雑談形式でやることを考えている、人が集まるかが心配。(今村)
 - ▶ 作業員が出席するための理由付けが重要。(松井)
- 森林組合そのものは、人の問題というより森の問題に関係が深いので、ミーティングについては森林組合にこだわる必要はないのではないかと考えている。(蔵治)



●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

- ガイドラインの検討体制として、関連する自治体の担当課に協力を要請したい。(蔵治)
 - ▶ 長野県森林政策課と林野庁に対しては、参加の呼びかけ・働きかけが可能。(今村)
- 県の担当課へ作成趣旨の説明に行くため、8月又は9月くらいから議論開始予定。(蔵治)
- マッピングの作成については、愛知県所有の森林GISのデータが使えると考えられる。(原田)



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ガイドラインは3カ年かけて策定することを予定。参加者の思いを含めて心のあぶり出しを行うことを目的に、「ブレインストーミング方式」でアイデア出しを行う。(今村)
- ガイドラインはストーリーを重視した読み物とすべき。(丹羽)
- 流域圏懇談会のアピールを目的とした流域圏製品を商品化していくことも面白い。(城田)



ふりかえり



会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。

よかったことと思うこと

事例集づくりに向けて、調査対象も出てきて、次回までのみんなの結果が楽しみ/流域でつながる情報が得られました

よくなかったと思うこと

山の百姓が、ほとんどいない場で進められている/課題が煮つまるにつれ、違和感が増している

今後取り組んでいきたい活動など

懇談会ウェブサイトを抜本的に改善したい/事例集の第1集を作り上げる事/山村再生担い手づくり事例集作成/流域材利用の方向性

今後のスケジュール (予定)



次回のWGを7月20日(土)9時から根羽村老人福祉センターにて開催します。

◆情報提供



- いっぺん寄ってみよまいか〜結の炭家でアイターンゆんたく〜：7月17日(水)18時〜宿泊OK
- 森女の森づくり〜林業女子のスヌメ in 美濃市〜：7月28日(日)9時30分〜16時
- 岡崎のきこり塾 講演会(ぬかた会館)：10月6日(日)13〜17時



矢作川流域圏懇談会通信

山部会編 vol. 2



発行日：平成 25 年 7 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 10 回山部会WGを開催しました！

7 月 20 日（土曜日）に第 10 回山部会WGが開催されました。
今回の WG では、山部会で取り組んでいる 4 つのこのうち、山村再生担い手づくり事例集と矢作川流域圏木づくりガイドラインの 2 つについて話し合いました。



日時：平成 25 年 7 月 20 日（土）9:00～12:00
場所：根羽村老人福祉センター
参加者：12 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



矢作川流域の中山間地域振興に関わる団体・個人の活動情報を共有し、ネットワーク化を支援していくことを目的とした山村再生担い手づくり事例集は、山村の担い手のいる現場に行き、直接、現場の人たちの苦悩や喜び・課題に触れることを目的とした調査からはじめることとなりました。

調査の概要は以下の通りです。

- ・調査先団体：根羽村、恵那市、岡崎市、豊田市の山村で活動する団体（具体的な団体名は裏面参照）
- ・調査者の決定：調査参加希望者を募集し、山部会で調整し決定します。
- ・調査の方法：質問の方法・聞き方などは、調査する人の自由ですが、質問の内容は、マニュアル（作成中）に記載のある項目とします。また、1 団体あたり 2～3 時間かけて調査をし、2 人位で実施することを想定します。



2. 矢作川流域圏木づくりガイドラインについて



矢作川流域圏木づくりガイドラインは、矢作川流域圏の木材利用を住民・事業者・行政が一体となって推進するきっかけづくりを目的とし、3 力年かけて策定する予定です。

1 年目の今回は、「木づくりガイドラインははじめの一歩」として、参加者の方々が、「森や木を好きになったきっかけや原体験・感動した場面と、その体験を他の方に知ってもらうにはどうしたらよいか」について意見を出し合いました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

山村再生担い手づくり事例集について

●調査マニュアルについて

- 活動範囲が広域な団体もある。地図などを差し入れて紹介すればよいか。教えて頂きたい。(原田)
 - ▶ 活動範囲の記載の考え方は、活動拠点と活動範囲の両方を記載することがよい。(洲崎)
- 調査の行い方は取材に行く人のやり方に任せることでよいか。(今村)
 - ▶ よい。2人位で伺い、1団体2~3時間かけてやる。一日で多くても3団体程度の調査をこなすことを考えている。(洲崎)
- 調査先のインタビュー相手によって内容が変わるのは適切でないので、聞き取り相手の選定は、この点を意識して行うことがよい。(蔵治)

●聞き取り相手について

根羽村、恵那市、豊田市、岡崎市それぞれの活動団体の概要について、情報共有を行いました。そのうえで、実際の聞き取り相手について検討しました。

現時点での聞き取り先の団体は以下の通りです。

根羽村：根羽村森林組合、根羽杉っこ餅、根羽村猟友会

恵那市：恵南森林組合、NPO 法人東濃・森林づくりの会串原支部、NPO 法人奥矢作森林塾、NPO 法人福寿の里自然倶楽部

豊田市：矢作川水系森林ボランティア協議会、とよた森林学校、とよた都市農山村交流ネットワーク、豊森なりわい塾、株式会社 M-easy、旭木の駅プロジェクト、千年持続学校、おむすび通貨、green maman、農業法人みどりの里

岡崎市：NPO 法人中部猟踊会、岡崎森林組合、おおだの森保護事業者会(山留舞会-やるまいかい)、じさんじょの会



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- 森や木を好きになったきっかけや原体験・感動した場面と、その体験を他の方に知ってもらうにはどうしたらよいか」について意見を出し合いました。主な意見は下記です。

- ▶ 幼少の頃から木工が好きで、人工林の間伐を通じて森林にはまっていた。(原田)
- ▶ 森が身近な地域で育った。積木がぶつかり合うときに出る音等、木のもつ感覚がよい。(城田)
- ▶ 子供にとっては、森の手入れに使う道具などはスリルがあって面白い。(斉藤)
- ▶ 小学生の頃、工作で木工玩具を作り、道具の使い方を覚え、その後遊びが本格化した。(石原)
- ▶ 幼少の頃、家族で行く山登りが好きだった。木の匂いは安心感を与えるので好き。(長谷川)
- ▶ キャンプ時の悪天候に木の下で雨宿りをした際に、安心感を覚えたことが印象的。(森)
- ▶ 鎌倉の山と海で育つ。山と海には生きていく知恵が沢山あると感じている。(黒田)
- ▶ 生き物と木が好き。木のよさに魅せられ、少し前に自宅を間伐材で張り替えた。(沖)
- ▶ 北海道育ち。森には近寄ってはいけないルールがあったが隠れて遊ぶのが楽しかった。(南木)
- ▶ 東京都内でも奥多摩や飯能の山に親しみながら過ごした。小学生の時に作った木工作品を先生に褒められたことが印象的。都会の人に山に来てもらってイベントなどをするとよい。(蔵治)
- ▶ 学生時代、狭山丘陵で懐かしい風景に出会う。木に抱きつくほど感動し、研究者を志す。(洲崎)
- ▶ 子供の頃、犬小屋を木で制作した。登山が好きで、山頂から見る風景に感動している。(今村)

- 次回は「森や木がこんなふうになればいいのに」と感じることや、「そのために取り組む内容」について自分なりに考えておいて頂きたい。(今村)
- 映像、写真、子供の頃に自分で作った作品などがあると議論が盛り上がる。(今村)



今後のスケジュール(予定)

次回のWGを8月17日(土)に豊田市役所足助支所にて開催します。

◆情報提供

- 2013年11月2日(土)・3日(日/文化の日)：第6回いい川・いい川づくりワークショップ開催



矢作川流域圏懇談会通信

山部会編 vol.3



発行日：平成 25 年 8 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第4回山の地域部会・第11回山部会WGを開催しました！

8月17日（土曜日）に第4回山の地域部会・第11回山部会WGが開催されました。

今回のWGでは、山部会で取り組んでいる4つのことのうち、山村再生担い手づくり事例集と矢作川流域圏木づくりガイドラインの2つについて話し合いました。

日時：平成 25 年 8 月 17 日（土）9:00～13:00

場所：豊田市役所 足助支所 2階 第2会議室

参加者：15名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 第4回山の地域部会にて、役員の変更を行いました。



第4回山の地域部会にて、矢作川流域圏懇談会規約に基づき、役員の変更を行いました。

座長に東京大学大学院の蔵治光一郎准教授、副座長に岐阜県立森林文化アカデミーの丹羽健司非常勤講師が改選されました。



2. 山村再生担い手づくり事例集について



山村再生担い手づくり事例集の作成に向け、山村の担い手のいる現場に行って、直接、現場の人たちの苦悩や喜び・課題に触れることを目的とした調査を行います。

今回は、取材調査の募集方法や具体的なスケジュールについて話し合いました。10月の取材調査開始に向けて、着々と準備が進んでいます。



3. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



今回は「木づかいガイドラインはじめの一歩」として、参加者の方々が「森や木を前にして、これではいけないのでは、もっとこうなればなあ、こんな風になればいいのに」と思う点について意見を出し合いました。

身近にある木の暮らしをイメージしながら、流域の木材利用や木工製品の活用方法について、多くの意見が出されました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集の作成にあたり、取材調査の実施にあたっての具体的なスケジュールと取材先への協力依頼文、取材者募集のメール文面の案について話し合いました。会議の中で出た意見を反映し、10月の調査に向けて準備を進めます。

出た意見

- 取材者募集の文面には、取材先の選定は「自発的で優れた活動団体」を対象としていることを付け加える。(蔵治)
- 取材の申し込み後、参加者の希望に沿うように取材先とのマッチングを行うが、必ずしも希望通りにならないことを記載しておく。(丹羽)

2013年度スケジュール案

今年度のスケジュールを以下のように予定しています。

・8月17日(日)	山部会WGでの作業
・～8月25日(日)	取材先の連絡先・連絡方法確認
・～9月6日(金)	取材先への連絡と取材の可否確認
・9月7日(土)～9月27日(金)	取材者の募集
・10月1日(火)～10月14日(火)	取材先と取材者のマッチング、 取材者への連絡(取材方法と取材先の通知)
・10月15日(水)～12月28日(土)	アポイントメント、聞き取り、レポート提出
・1月6日(月)～2月28日(金)	2013年度山村再生担い手づくり事例集作成、交通費精算



参加者の募集について

- 山川海の連携が大切。山部会のメンバー以外にも川と海からの参加があるとよい。(丹羽)
 - ▶メールによる呼びかけに加え、川部会、海部会が開催する会に説明へいき案内することがよい。(蔵治)
 - ▶8月26日の川部会と9月9日の海部会に出向き、周知してくる。(丹羽)
 - ▶8月21日の市民会議に出向き、周知してくる。(洲崎)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインの作成のはじめの一歩として、「森や木を前にして、これではいけないので、もっとこうなればなあ、こんな風になればいいのに」と感じることにについて、ブレーストーミング方式で意見を出し合いました。主な意見は以下です。

【木づかいガイドラインについて】

- ▶職業柄、木づかいガイドラインの作成は形式から考えてしまうので、今回のやり方は、消費者目線・利用者目線で考えられるためよい。(原田)
- ▶矢作川流域に住んでいることの意味は、流域市民の暮らしの質が上がる、価値が上がるということにつながる。(相川)
- ▶ガイドラインはみんながわかるものがないとだめ。書店でマイサイズが入ったキットを売るなども面白い。(城田)
- ▶立っている木に親しめる機会があるとよい。森を明るく。歩いて楽しい林にできればよい。(洲崎)
- ▶木づかいガイドラインと森づくりガイドラインはリンクしていないといけない。(黒田)
- ▶工務店とのブレーストーミングを通じて意見交換などができるとおもしろい。(蔵治)

【木材利用の推進について】

- ▶旭の交流館から依頼があり、木や森に関することを子供たちに伝えるイベントをした。子供は将来性があるので、木の良さをわかってもらえるとよい。木材でつくられた小学校などを通じてPRしたいが、森林組合だけで行うのは困難。(松井)
- ▶人間のライフサイクルを考えると、どの時代も同時期に同じものを購入しており、木材も今後、チャンスがある。(相川)
- ▶総無垢のベビーベッドがある。世の中にはファーストウッドという考えもある。(蔵治)
- ▶ファーストウッドで地域振興している上飯田の例がある。(原田)
- ▶机、ランドセルなど成長に応じて木を用いた製品を使ってもらう手もある。(丹羽)
- ▶北海道のエコビレッジでは、自分達で使うものを自分たちで作る。生活の中にあるものは意外と自前でできる。(城田)
- ▶普通の人々が作れるものを品目に入れるべきだし、そのようなものの中には雇用を生み出すのはたくさんある。(城田)
- ▶木の駅プロジェクトに関連し、ちょっとした木工が可能となる機器をおいておければよい。(南木)
- ▶日曜大工は道具をそろえればその気になればできる。(丹羽)
- ▶リフォームへの補助金(城田)
- ▶豊田森林組合では、工具そのものを貸し出すことはしないが、組合で実施する体験学習に参加した方には、使ってもらっている。講座が終わった人がまた使いたいといってくることもある。(松井)

今後のスケジュール(予定)



次回のWGを9月13日(土)に元気村にて開催します。





発行日：平成 25 年 10 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

第 12 回山部会WGを開催しました！

9 月 14 日（土曜日）に第 12 回山部会WGが開催されました。
今回の WG では、山部会で取り組んでいる 4 つのうちのうち、山村再生担い手づくり事例集と矢作川流域圏木づかいガイドラインの 2 つについて話し合うとともに、森づくりガイドラインの進捗状況について情報提供がありました。



日時：平成 25 年 9 月 14 日（土）9:30~12:00
場所：旭高原元気村 研修室
参加者：16 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 矢作川流域圏森づくりガイドラインの進め方（進捗状況）



矢作川流域圏森づくりガイドラインは、流域圏の森林はこのような森林であって欲しいと願う姿を示し、同時にそれを実現するための手段について、提示することを目的としたガイドラインです。

このガイドラインづくりには、流域圏を構成する行政の方の参加が不可欠であるため現在、関係行政機関への主旨説明を行っているところです。次回の第 13 回山部会 WG で関係行政機関の方にもご出席いただき、ガイドラインの策定準備が開始される予定です。



2. 山村再生担い手づくり事例集について



10 月の下旬から 12 月にかけて、山村再生担い手づくり事例集の作成に向けた取材調査（山村の担い手のいる現場に行って、直接、現場の人たちの苦悩や喜び・課題に触れることを目的とした調査）を行う予定です。

今回は、取材調査の募集方法や具体的なスケジュールについて話し合いました。10 月の取材調査開始に向けて、取材者への連絡などの準備が進んでいます。



3. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



今回は前回に引き続き「木づかいガイドラインははじめの一步」として、大好きな森や木についての素敵な本をガイドラインに見立て、参加者の方々が「これから作りたい素敵な本の内容とはどのようなものか」について意見を出しました。

また、第 10 回、第 11 回山部会 WG で行ったブレインストーミングの結果についてもふりかえり、今後、どのようなガイドラインを作っていくか話し合いました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見

●山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集の作成にあたり、取材調査の実施にあたっての具体的なスケジュールと取材者増加に向けた方法について話し合いました。会議の中で出た意見を反映し、取材者を集いつつ、10月の調査に向けて準備を進めます。

出た意見

- 取材者をもう少し増やす必要がある。流域圏のメンバーを基本として個別に呼びかけを行ってほしい。
- 仮に人数が増えなかった場合、その人数で複数地点を取材してやりきることとする。

2013年度スケジュール案

- 今年度のスケジュールを以下のように予定しています。

・～8月25日(日)	取材先の連絡先・連絡方法確認(各地区担当)
・～9月6日(金)	取材先への連絡と取材の可否確認(事例集事務局)
・9月7日(土)～9月27日(金)	取材者の募集(事例集事務局)
・10月1日(火)～10月14日(火)	取材先と取材者のマッチング(事例集事務局) 取材者への連絡(取材方法と取材先の通知)
・10月15日(水)～12月28日(土)	アポイントメント、聞き取り、レポート提出(取材者)
・1月6日(月)～2月28日(金)	振り返り 2013年度山村再生担い手づくり事例集作成



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインの作成のはじめの一歩として、「森や木を前にして、これではいけないので、もっとこうなればなあ、こんな風になればいいのに」と感じるということについて、ブレーストーミング方式で意見を出し合いました。主な意見は以下です。

【木づかいガイドラインのイメージについて】

- 山の暮らし、森の暮らし、木のある暮らしという点では音の風景というものが強い。木を切る音、薪を割る音がすると冬がやってくるという感じる。(黒田)
- 山の中で田んぼ仕事をしていても木のざわめきなどがすると寂しい感じがしない。最近は木造のいい建築物などが減ってきたが、日本人はこの100年間で木の価値を知らないまま作り替えてきた印象もある。(沖)
- 音の風景に加えて木の匂いや森らしい癒される絵などがあれば、視覚に訴えかけできると同時に心のスイッチが入る。また、木や森に関する世の中の誤解を解消するようなネタが、本の中にコラム的に入っていると面白い(長谷川)
- かつては木造2階建ての小学校があった。そういうのを見ると懐かしい気持ちになる。(後藤)
- 森林の減少や重要性について日常生活でなかなか触れられないのでそのあたりを本の中で訴えられるとよい。(西原)
- プロの方が知っているマニアックな内容があると取り付きやすい。(森)
- トトロなどのアニメを通じ、木や森を知った。森の不思議なところをドラマやアニメで表現することは有効だと思う。(石原)
- 心のスイッチは魚釣りのときに入る。明らかに魚が釣れそうな雰囲気がある場所を見つけるとワクワクする(南木)
- 学校は学問を教えるところではなく、感性を教えるところだと言われている。人工物であるコンクリートで造られたマッチ箱のような校舎で感性が養われるわけがない。その意味で「近代化・人工物が優れているところ」をこれから改めて見直していく時期と考えている。(原田)
- これからの世代を担うこともたちにも読んでもらうことが重要。専門書とうよりもう少し柔らかいイメージがよい(松井)
- 宮沢賢治の「狼森と笹森、盗森」という本が好き。木が語る言葉を理解できる人が、森の中を歩いている時に、木が人間に話しかけてくる本があると素敵。木の言葉を聞きに森の中に行ってみたくなるとよい。(洲崎)
- これまでに人間が行ってきた近代化や、木の話していえば密閉化された構造物などの解消に取り組むなど、今一度見つめ直ししていくことが必要だと思う。(長澤)

【木づかいガイドライン(市民編)】

みなさんの意見をひまえ、今後、どんな木づかいガイドラインにしたいか考えていきます。

読むと行動したくなる本／読むと人に会いたくなる本／読むと人に話したくなる本／読むと人にあげたくなる本／読むと市民として参加できる本／読むとライフスタイルに影響を与えられる本／読むといいものと出会ったことを実感させられる(わくわくする)本／自分たちが作ったから人にあげたくなる本／自分たちが作っておいて良かったと思う本／「矢作川ディズな人たち」を定義してしまう本(イメージ)



今後のスケジュール(予定)と情報提供

次回のWGを10月21日(月)に豊田市職員会館にて開催する予定です。
第6回いい川・いい川づくりワークショップが11月2日・3日に開催されます。



矢作川流域圏懇談会通信

山部会編 vol.5



発行日：平成 25 年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

第 13 回山部会WGを開催しました！

10月21日（月曜日）に第13回山部会WGが開催されました。
今回のWGでは、山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づくりガイドラインの3つのプロジェクトについて話し合いました。

日時：平成 25 年 10 月 21 日(月) 13:30～15:30
場所：豊田市職員会館 3F 第1部室
参加者：18名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



山村再生担い手づくり事例集の作成にあたり、取材を企画しておりましたが、9月末までを募集期間として、15名の方々が集まりました。参加者と取材先のマッチングを10月7日に行いました。年内をめどに取材を終える予定です。

11月26日に中間報告会を実施して、取材の進め方や取材結果を情報共有します。年明けにふりかえりを行います。引き続き取材者を募集します。ご興味がおありの方はぜひご参加ください。



2. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



愛知県本庁林務課、豊田加茂事務所、西三河事務所を訪問しました。前回のWGから今回までに、新たに5か所（林野庁中部管理名古屋事務所、長野県本庁林務課、岐阜県本庁林務課、愛知県水地盤環境課）に趣旨説明を目的とした訪問をしました。

森づくりWGは平日の開催とし、会場は4地区を持ち回りすることで、すすめていきます。



3. 矢作川流域圏木づくりガイドラインについて



矢作川流域圏木づくりガイドラインは、その着地点とみなさんのイメージを情報共有しました。特に「矢作川デイズ 木づくりガイドライン ライフステージアタック表（イメージ案）」を参考に、ガイドラインの内容として、参加者皆さんが大事にしたい事柄について意見として出すこととなりました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。



◆話し合いでの主な意見

●山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集の取材調査がいよいよはじまります。
9月末までに集まった15名の方々に加え、今回、WGに参加者した方からも参加したいとの声があがりました。

引き続き取材者を募集しています。特に、海部会や川部会などの分野が異なる人の参加が大変よいとの意見もありました。

11月26日に予定されている中間報告では、取材結果を情報共有し、その後の取材方法などについて、確認を行う予定です。



●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインの策定は流域圏の行政が関与するため、現在、ガイドラインの趣旨説明と協力要請を行っています。愛知県への訪問が完了しており、今後、岐阜県、長野県等へ出向き、今年中には関係行政を訪問しきる予定です。

訪問した関係団体) 国: 林野庁中部森林管理局名古屋事務所/愛知県農林水産部 農林基盤担当局林務課、環境部水地盤環境課/愛知県出先事務所: 豊田加茂農林水産事務所林務課、西三河農林水産事務所林務課/岐阜県林政部森林整備課/長野県林務部森林政策課/矢作川水源基金

出た意見

- ガイドラインはカタログを作るイメージ、社会的にも全体像をだれもみたことがないので作る意義が大きいと考えている。(蔵治)
- データのアップデートのタイミングを考慮してとりまとめていけるとよい。(城田)
- 木材搬出量の把握は容易ではない。間伐材は補助事業を使っているので申請書を見ると把握が可能と考えられる。(原田)
- ガイドラインとしてどこまでまとめることが可能か、事務局の考えもお聞きしたい。(蔵治)



●矢作川流域圏木づくりガイドラインについて

木づくりガイドラインについては、ライフステージ別に整理したアタック表をもとに、次回の山部会WGで話し合うこととなりました。

次回のWGまでにメンバーそれぞれから、アタック表のどの部分を大切にしてガイドラインを作成していきたいか、考えてくることとなりました。



●その他(会の持続的な運営を目指して)

各ワーキングが動き出していて一定の進捗が確認できているものの、今後、よりよいものを作ろうとすると予算的にも人員的にも一定の限界があるとの指摘があり、来年度以降の会の運営についても考えていく必要があるとの認識が共有されました。

出た意見

- 事務局としての考えも今後聞きながら進めていきたい。(蔵治)
- 任意団体をつくって助成金をとることも可能。(黒田)
 - 助成事業の結成そのものが成果と考えることもできる。(丹羽)



今後のスケジュール(予定)と情報提供



次回のWGを11月9日(土)に恵那市にて開催する予定です。
第6回いい川・いい川づくりワークショップが11月2日・3日に開催されます。



矢作川流域圏懇談会通信

山部会編 vol.6



発行日：平成 25 年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 14 回山部会WGを開催しました！

11 月 9 日（土曜日）に第 14 回山部会WGが開催されました。
今回の WG では、山部会で取り組んでいる 4 つのこのうち、山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域圏森づくりガイドライン、木づかいガイドラインについて話し合いました。



日時：平成 25 年 11 月 9 日（土）9:30～12:30
場所：奥矢作レクリエーションセンター 大会議室
参加者：16 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



山村再生担い手づくり事例集の作成に向けてのヒアリングの実施状況及び、今後のヒアリング調査の予定について話し合いました。
これまで 2 団体にヒアリング調査を実施し、今後 19 団体にヒアリングしていくことを確認しました。



2. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



森づくりガイドラインの作成に向けて、関連する自治体への意向把握結果の報告と、流域圏の「森づくり」をリストアップすることを話し合いました。
リストアップについては、①現況図、②地区別の森林基礎データ、③各地区でアピールしたい流域圏の森づくりの事例、④市境・県境を越えた連携による森づくりの事例を対象とすることを確認しました。



3. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



木づかいガイドラインについては、ライフステージ別に整理したアタック表をもとに話し合いをしました。
話し合いの中では、表の中に現在行われている事例を入れてみる、対象として、素人山主や購買層を追加する、木工製品をつくる人との連携を図るなどの提案が出されました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手事例集について

山村再生担い手事例集づくりに向けたヒアリングの実施状況について確認しました。

○実施した感想

- ・NPO 法人福寿の里自然倶楽部へのヒアリングでは、流域圏の交流に向けた前向きな提案があったので、福寿の里で山部会WGを開催したらどうか。(洲崎)
- ・とよた都市農山村交流ネットワークへのヒアリングでは、豊田と岡崎の熱い交流ができたことがよかったと取材者が喜んでいました。(長澤)



○今後の実施予定

- ・ねばっこ餅(11/27)、恵南森林組合(12/11)、NPO 法人奥矢作森林塾(12/8)、株式会社 M - easy(11/27)、旭木の駅プロジェクト(11/27)、green maman(11/26)、農業法人みどりの里(11/15)
- ・11月26日は中間報告会を開催。

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

ガイドラインの作成に向けて、関連する自治体へのヒアリング結果の報告と今年度とりまとめるガイドライン内容、役割分担を話し合いました。

○実施した感想

- ・愛知県は流域圏懇談会についてあまり認識されていない感触を受けた。(蔵治)
- ・岐阜県、長野県、中部森林管理局について重要性を理解しており、一緒に検討していきたい意向を持っているようである。(蔵治)



○今後の実施予定

- ・現況図については、C T I が用意することでいいか。(蔵治)
 - ▶ よい(土屋)
- ・植生図については提供が可能である。(洲崎)
- ・森の健康診断のデータがあれば重ね合わせできないか。(丹羽)
 - ▶ G I S で作成されたデータを提供頂ければ対応は可能。(土屋)
- ・地区別の森林の基礎データについて、間伐実績は、岡崎と豊田は調査が可能。それ以外は、各組合で対応してほしい。(蔵治)
 - ▶ 恵南森林組合では、流域内の集計はないが、全体では把握可能。(大島)
- ・検討にあたっては、林業指導普及員も同じテーブルについてもらってはどうか。そうすれば、森林に関するデータや事例なども出やすいのでは。(今村)
- ・現場のことは、森林施業プランナーに聞けばいいのでは。情報量がすごい。(丹羽)
- ・今年度は、現況図の作成と地区別の森林の基礎データをあつめるまでにしたい。(蔵治)



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインについて、ライフステージ別に具体的な内容を記載したものに対しての話し合いを行いました。

- ・赤ちゃんから対象になっているのがいい。木のおもちゃで遊んだ人の方があそびの工夫ができ、リーダーシップにつながっている例がある。(松井賢)
- ・対象に素人山主も追加し、山に関心を持ってもらうきっかけになればいい。(丹羽)
- ・表の中に具体的な事例を入れていくといいと思う。その中で不足する部分も見えてくる。(丹羽)
- ・購買層もターゲットとして重要ではないか。(長澤)
- ・恵南森林組合では、定年者を対象に木工クラブとして製材所を開放してきたが、参加者があまり広がらなかった。人口が多くないと難しいのではないかと感じた。(大島)
- ・自分が森に入ることはハードルが高いため、木育や木工製品との関わりをつくるのが先決。しかし、矢作川で販売されているものは、丸太材であり、木工製品をつくる人との連携が重要ではないか。(蔵治)
 - ▶ 木育は大切であり、この地域でしかできないという概念をアピールしたい。(今村)
- ・ガイドラインで取り扱うものは、木づかいだけでなく、森づかいということだと思う。日常でできることと、現地に行かないとできないことに分けられる。(城田)
- ・豊田市では、セカンドスクールが大人気。田舎でできる普通のことが楽しまれている。(洲崎)



今後のスケジュール(予定)と情報提供



次回のWGは12月11日(水)に上矢作振興事務所基幹集落センターにて開催します。
次回の地域部会は1月27日(月)に開催します。

- ・2013年12月1日(日): いなかとまちの文化祭を開催



矢作川流域圏懇談会通信（案）

山部会編 vol. 7



発行日：平成 25 年 12 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 15 回山部会WGを開催しました！

12 月 11 日（水曜日）に第 15 回山部会WGが開催されました。
今回の WG では、山部会で取り組んでいる 4 つのこのうち、今年度WGとして活動している山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域圏森づくりガイドライン、木づかいガイドラインについて話し合いました。



日時：平成 25 年 12 月 11 日（水）14:00～16:30
場所：恵那市上矢作振興事務所基幹集落センター 2F 中会議室
参加者：26 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



山村再生担い手づくり事例集の作成に向けた取材について、取材者からなる取材の中間報告会で出た意見について情報共有を行いました。

これまで 15 団体にヒアリング調査を実施し、残りの 4 団体についてもヒアリングをすすめていくことを確認しました。

また、1 月に予定されている地域部会では、取材のレポートを提示し、メンバーからのご意見を募ることが案内されました。



2. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



森づくりガイドラインの作成に向けて、関連する自治体への意向把握結果の報告と、今年度検討するガイドラインの内容について話し合いました。

ガイドラインについては、その内容を詰める前に、矢作川流域の全体像を把握する目的で「矢作川流域の森づくり」と題する資料を作成し、情報共有を図ることとしました。

今回は、「矢作川流域の森づくり」について一部の資料が示されました。



3. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



木づかいガイドラインについては、今回はじめてWGに参加する方々との情報共有という面も含めて、これまでの活動経緯とあわせて、作成の目的、意見交換の結果等について共有しました。

そのうえで、来年度以降、木づかいガイドラインの策定に向けて行っていく作業とその方法について話し合いました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手事例集について

これまでの取材の情報共有の場である中間報告会の中で出された意見について紹介がありました。

○実施した感想

- ・ 実体験に基づいたアドバイス（1ターンで地域に入ってくる方に向けた心得など）や地域の課題解決手法（空き家対策など）を聞いたことが大変興味深かった。（洲崎）
- ・ 新しい交流が生まれることが次の取組につながることになる。（丹羽）
- ・ アウトプットは年度末の少し前にまとめたイメージでいる。全体会議には暫定版としてアウトプットイメージを配ることを考えている。（洲崎）



○今後の実施予定

- ・ 引き続き、まだ取材を行っていない団体と日程調整等を行い進めていくことが確認されました。また、1月に予定されている山の地域部会で取材レポートを出す予定で編集作業を行うこととしました。

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

ガイドラインの作成に向けて、関連する自治体へのヒアリング結果の報告と今年度とりまとめるガイドライン内容、役割

○実施した感想

- ・ これまでのWGの中で提案してきた資料収集が一部行えた。そのなかで、地域の森づくりに関するPRポイントは様々であることがわかった。（蔵治）
- ・ 今後の進め方としては、「森について」、「制度について」などの分類を行い、議論を進めることがよいと考えている。（蔵治）



○今後の実施予定

- ・ 地形図や植生図などをより見やすくするために市町村会等の表示は可能か。（蔵治）
 - ▶ 市町村行政界の明示は可能。これに加えて、ご意見いただいた矢作川や流域圏のダム、国有林と保安林の表示方法はわかるかたちで表示する。（長谷川）
 - ▶ 図面等のデータ整理については、年内までにメンバー間で照会をかけて意見収集をすることで対応する。（西原）
- ・ 森づくりのPRポイントについては、次回の会議で、岡崎市の取組を紹介してもらうこととする。（蔵治）



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインについて、これまでライフステージごとに木づかいの推進方策について、意見交換をしてきました。

今後は、ガイドラインの作成として市民目線を意識するため、ガイドライン作成にあたっての今後のパートナーとして次の分野の方々を、メンバーから推薦して共同して作成していくことが情報共有されました。

○今後の実施予定

- ・ 今回、はじめてWGに参加する方々を含め、今年度、意見交換を行ってきた内容をとりまとめた「木づかいガイドライン作成関連資料」をメンバーそれぞれでふりかえりしておくこととなりました。
- ・ 今後のパートナーについては、推薦者が根羽村森林組合の今村氏へ連絡することとなりました。

ガイドライン作成に向けた今後のパートナー

- ・ 林業普及指導員
- ・ モニターの市民
- ・ 素人山主
- ・ 工務店
- ・ 建築士
- ・ 木工品展
- ・ 木エクRAFTマン
- ・ ナイス等木材流通業者
- ・ 道の駅
- ・ アウトレット商品取扱店



今後のスケジュール（予定）と情報提供

次回の地域部会は1月27日（月）に開催します。

